

光電式分離型感知器の誤作動



あるショッピングセンターの吹抜け部分に設置されていた**光電式分離型感知器**が発報するようになりました。 設置位置は図のように屋上駐車場まで吹抜けとなっています。

光電式分離型感知器について →

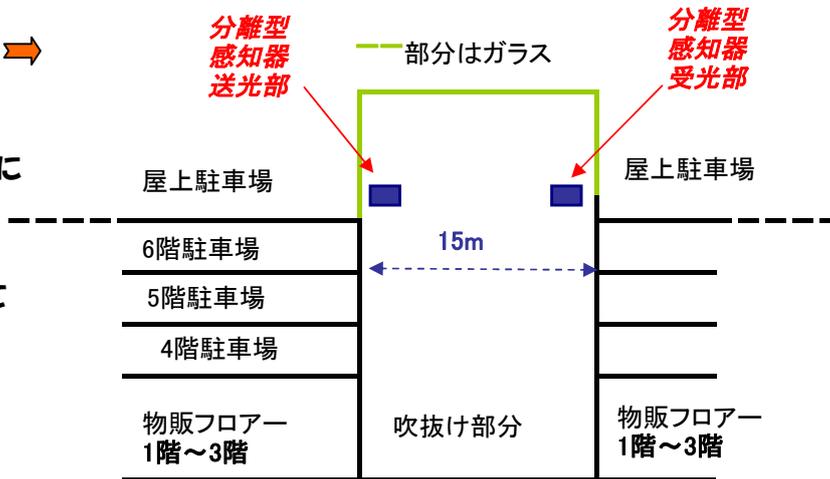
誤報!

この分離型感知器が突然発報を繰り返すようになりました。

当初は間隔が1週間ほど空きましたが、やがて3日おきに、そして1日おきに 発報!

何とかしろよ!

対策!



分離型は最長監視距離が100mですが、この対象物の場合15mほどですから、機器の劣化は非常に考え辛くさらに発報時の状況は真昼間で、故意に煙状のものを発生させるいざずらも考えにくい状況でした。

まず第一歩として機器の性能を見るため、**減光フィルター**による試験を行いました。

その結果、作動、不作動値に不具合や不自然な点は見つけられませんでした。この調査期間の間にも発報があり、結論として**機器の劣化**とさせて頂き、機器を交換致しました。 **とととところが!!!!**

交換後2日で発報!!!!

おい!何やってんだ!!!!!!! **バカ野郎!!!!!!**

急行したその日、屋上の駐車場に車を停めたその瞬間 **私は見た!!!!!!!**

作業着のオッサンは **見た!**

吹抜け部分のガラスから降り注ぐ **太陽光**

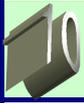
燦爛と降り注ぐ

分離型感知器に降り注ぐ **太陽光**

送光部に燦爛と降り注ぐ

受光部に燦爛と降り注ぐ





NBS119

そしてオッサンは 気付いた!

誤作動の原因はこの**太陽光**ではないか?! メーカーの技術にも相談しましたが、今までの事例として

太陽光が直接の誤報の原因であったことは**炎感知器**ではあったが、光電分離では、無い!

とのことでしたが、過去に無いから、無い!とは言えません。

そこで 弊社はオーナーに下記のような御提案を致しました。



御提案

しばらくの間 天候と発報との関連を調査したい。方法は毎日の天気、日照時間、気温、吹抜け内部の温度と発報の頻度の確認を行う という内容です。

1ヶ月間 張り付きました。受信機の前にただ ただ 座って発報を待ちました。その間かなりの回数発報があり、その都度吹抜け部の確認を行いました。

そして やがて9月も半ばを過ぎた頃、発報もようやく落ち着いてきました。

そして 調査票を見ますと、誤報の原因が明らかになりました。

天候、気温、同時に太陽光線が、明らかに誤報を誘発していました。

曇った曇天日にはほぼ誤報は発生しませんでした。



対策:

太陽光の侵入を阻止する方法を考えましたが、吹抜け上部を全面日光を

遮断すると言うデザイン上最低の方法しか見当たらず、最後の方法として所轄に相談いたしました。

取付高さが20mを少しオーバーしていますが、諸事情を説明して光電式スポット型煙にさせて頂きました。

以後 大変静かです!



西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ 